

|       |
|-------|
| 正 誤 表 |
|-------|

下記の部分に誤りがありましたので訂正させていただきます。  
ご迷惑をおかけし大変申し訳ございません。

## 2022 高度午前 I・応用情報 午前試験対策書 第 1 版 第 1 刷

| No | 訂正箇所                       | 誤  | 正   |
|----|----------------------------|--|---|
| 1  | P.475<br>(5)本文<br>上から 2 行目 | <p><b>(5) モジュール設計技法とモジュールの独立性</b></p> <p><b>モジュール</b>は、コンパイルして実行することができる最小単位のプログラムです。プログラム設計技法は、プログラムをモジュールに分割して、そのプログラムのモジュール構造を決定するための技法です。そして、その結果を、モジュール強度とモジュール結合度という尺度で評価します。分割したモジュールは、モジュール強度が強く、モジュール結合度が弱いものが独立性の高い良いモジュールとされています。この尺度の根本には、保守性という観点があります。仕様変更などでプログラムの修正が発生した場合に、できるだけ修正対象のモジュールを限定し、影響範囲を狭めたいという考え方です。</p> | <p><b>(5) モジュール設計技法とモジュールの独立性</b></p> <p><b>モジュール</b>は、コンパイルして実行することができる最小単位のプログラムです。<b>モジュール設計技法</b>は、プログラムをモジュールに分割して、そのプログラムのモジュール構造を決定するための技法です。そして、その結果を、モジュール強度とモジュール結合度という尺度で評価します。分割したモジュールは、モジュール強度が強く、モジュール結合度が弱いものが独立性の高い良いモジュールとされています。この尺度の根本には、保守性という観点があります。仕様変更などでプログラムの修正が発生した場合に、できるだけ修正対象のモジュールを限定し、影響範囲を狭めたいという考え方です。</p> |